

3/9 朝

コロナ病床拡充を計画 厚労省 感染者ピークの2倍想定

新型コロナウイルスの感染拡大で病床が逼迫したことを受け、厚生労働省が病床確保計画を見直すよう都道府県に求める。具体的には、地域の医療機関や自治体が話し合い、コロナ患者を診る医療機関を症状別に分類する。その上で、感染状況に応じた病床数を決める。

厚労省は次の感染拡大に備えるため、近く病床確保計画を改めて作成するよう都道府県に求める。具体的には、地域の医療機関や自治体が話し合い、コロナ患者を診る医療機関を症状別に分類する。その上で、感染状況に応じた病床数を決める。

厚労省は2月、大学病院などが重症者を、公立・公的医療機関など地域の中核的分担がうまく機能せず、病

床逼迫が相次いだ。

厚労省は次の感染拡大に備えるため、近く病床確保計画を改めて作成するよう都道府県に求める。具体的には、地域の医療機関や自治体が話し合い、コロナ患者を診る医療機関を症状別に分類する。その上で、感染状況に応じた病床数を決める。

厚労省は2月、大学病院などが重症者を、公立・公的医療機関など地域の中核的分担がうまく機能せず、病

床逼迫が相次いだ。

厚労省は次の感染拡大に備えるため、近く病床確保計画を改めて作成するよう都道府県に求める。具体的には、地域の医療機関や訪問看護ステーションが支援する仕組みを強化する。

このように患者受け入れの仕組みに基づいた病床数などを反映した病床確保計画を作成してもらう。確保する病床を単純に2倍にするのではなく、第3波のピークの2倍程度の感染者数の入院や療養に対応できる体制をめざす。ただ、医師会なども含めて関係者の連携が不可欠で、実効性のある計画を作るには地域で十分な議論が必要となる。

(姫野直行)